

臨床小児成育歯科学特論

Advanced Course of Clinical Dentistry for Growth and Development of Children

キーワード

- ① 心身の成長発育
- ② 生理的年齢
- ③ 心理発達
- ④ 行動変容
- ⑤ 咬合誘導

授業概要

各種症例に対し、医療面接、必要な検査を実施し、具体的な診断と治療方針の選択、治療計画の検討を行う。また、各症例に対する咬合誘導装置の設計と治療方法について修得する。具体的には、実際の臨床症例に対して症例毎に必要な検査方法の選択基準、検査資料を用いた分析方法を学修する。さらに分析結果を基にした治療方針の決定、治療計画を立案までを修得する。最終的には専門医取得に向けて必要な、症例別の対応方法と管理計画に関する知識を修得する。

授業科目の学修目標

小児の全身の成長発育と心理発達の特徴を理解し、小児患者の医療面接から診断資料の作成に必要な検査方法、分析方法を理解し、個々の症例に対する適切な治療方針の決定ならびに治療計画の立案方法を修得する。

授業計画

- ① 臨床診断を学ぶ：発育段階別の症例に対し、小児患者とその保護者に対する医療面接と検査の方法、診断ならびに治療計画の立案に必要な知識を修得する。
 - ・講義 8コマ 木本茂成
 - ・ケースプレゼンテーション1 4コマ 浅里仁
 - ・ケースプレゼンテーション2 3コマ 大久保孝一郎
- ② 症例別対応を学ぶ：各年齢段階別に、診断から立案した治療計画に基づく装置の製作方法と臨床的応用について学修する。
 - ・講義 6コマ 木本茂成
 - ・ケースプレゼンテーション1 3コマ 井上吉登
 - ・ケースプレゼンテーション2 3コマ 横山三菜
 - ・ケースプレゼンテーション3 3コマ 保田将史

教科書および参考書

Orthodontic and Orthopedic Treatment in the Mixed Dentition, James A. McNamara, William Brudon L. Brudon, Needham Press, 1993.
時間軸を見据えた小児期からの咬合治療、石谷徳人、東京臨床出版、2014.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

臨床小児成育歯科学特論では授業項目と臨床症例を基盤として、顎顔面ならびに歯列・咬合の異常を伴う小児に対応するために必要な検査項目、検査方法、診断、治療方法に関する知識と技能の修得が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 小児の発育段階に即した咬合誘導のための、検査、診断方法を理解し、説明できる。
- ② 診断結果に基づいて、個々の症例において適切な咬合誘導装置の設計、製作方法を理解し説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
50%	0%	20%	10%	0%	20%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回50%
- ・レポートは、臨床小児成育歯科学特論授業計画の①ならびに②の2項目について、それぞれ課題を提出する。10%×2回=20%
- ・口頭試問は、学修項目2項目のユニット終了時に行い知識の理解度を判定する。10%×2回=20%
- ・成果発表は、コース終了時に症例に関するプレゼンテーションを行い、評価する。10%×1回=10%

理想的な達成レベルの目安

臨床小児成育歯科学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。